

# 日本家庭科教育学会 第54回大会

6/25  
(土)  
26  
(日)

## ■公開講演会・対談 6/25 (土) 14:30~

こうのとりのゆりかごが問いかけたもの  
—家庭科教育への期待—

講師  
田尻 由貴子 氏  
慈恵病院看護部長

インタビュアー  
綿引 伴子 氏  
金沢大学教授

## ■公開シンポジウム 6/26 (日) 13:20~

家庭科を学ぶ子どもが輝くのはなぜか  
—学校カリキュラムのつくりなおし—

パネリスト

野口 易子 氏  
福岡県みやま市立瀬高中学校教諭

前田 恵美子 氏  
長崎県立口加高等学校教諭

岡 陽子 氏  
佐賀県教育庁教育政策課  
教育企画監  
元文部科学省 教科調査官

コーディネーター  
大竹 美登利 氏  
東京学芸大学教授

会場 長崎大学全学教育講義棟 201 教室

参加費 無料

講演会・対談、シンポジウム以外へのご参加は参加費が  
必要です。詳細は本学会 web サイトをご覧ください。

<http://www.jahee.jp/index.html>

■公開講演会・対談（無料）

6月25日（土）14:30～17:00 長崎大学 全学教育講義棟 201 教室

テーマ：こうのとりのゆりかごが問いかけたもの ―家庭科教育への期待―

趣旨：安心して子どもを産み育てる環境を整えることは現代社会における重要課題であるが、捨てられ失われるいのちが後を絶たないのが現状である。熊本市の民間病院が2007年に設置した赤ちゃんポスト「こうのとりのゆりかご」は、この問題を全国に問いかける大きな契機となった。本講演会では、「ゆりかごの要らない社会」をめざして、家庭科教育が果たす役割について考える場としたい。

■公開シンポジウム（無料）

6月26日 13:20～15:20 長崎大学 全学教育講義棟 201 教室

テーマ：家庭科を学ぶ子どもが輝くのはなぜか―学校カリキュラムのつくりなおし―

趣旨：本学会では家庭科教育の充実を目指して、さまざまな取り組みを行ってきた。そのなかでは対外的にも家庭科の重要性をアピールし、成果も表れつつある。しかし、社会一般的には家庭科の重要性や意義を十分に理解されているとは言い難い状況である。現在本学会では家庭科の時間増の実現を目指して、中・高の家庭科教員の置かれている立場を明らかにして一般向けのパンフレット作りや冊子作りに取り組んでいる。また、家庭科関係者が家庭科の必要性をアピールするためのマニュアル作り（Q&A）に取り組んでいる。教育課程全体の中で家庭科の存在感を高め、家庭科の必要性や意義を正しく理解してもらうための理論と方策を考える場が必要であるとともに、これらの取り組みについて、多くの方々に理解してもらい、共に取り組んでいく必要があると考え、本企画を計画した。

●交通アクセス

会場：長崎大学教育学部 〒852-8521 長崎市文教町 1-14

JR 長崎駅から ・路面電車「長崎駅前」→(赤迫行)→「長崎大学前」下車（所要15分）

JR 浦上駅から ・路面電車「浦上駅前」→(赤迫行)→「長崎大学前」下車（所要10分）

●日本家庭科教育学会第54回大会の他のプログラム（研究発表、ポスタープレゼンテーション）  
にご参加になる場合は参加費が必要になります。

プログラムの詳細および参加費等については本学会 WEB サイトをご覧ください。

<http://www.jahee.jp/index.html>

●問合わせ先

大会事務局：赤崎真弓（大会実行委員長）

〒852-8521 長崎市文教町 1-14 長崎大学教育学部

Tel&Fax：095-819-2368 E-mail：akasaki@nagasaki-u.ac.jp